ヴィエトナム国市場経済化支援に係る フォローアップ研究プロジェクト

第2卷 財政金融

1999年12月 JISA LIBRARY 11157517(2)

計画投資省 ウィエトナム社会主義共和国 国際協力事業団 日本国

绁	<b>!</b>	(3)
華	ŲŖ	(X)
Ò	0' 🚉	<b>2</b>

•





## ヴィエトナム国市場経済化支援に係る フォローアップ研究プロジェクト

第2巻 財政金融

1999年12月

計画投資省 ヴィエトナム社会主義共和国 国際協力事業団 日本国

1157517 {2}

## 目 次

## 財政金融

序論	
1 金	融部門の現状と改革課題
	渡辺 慎一・Le Quoc Ly ············· 3
2 ウ	「ィエトナムにとっての資本規制政策 -東南アジアの金融危機から学ぶ教訓- 、 堀内 昭義 25
第1章	金融システムの現状と政策課題
<u>I-1</u>	"Evaluate Current Financial Conditions and Prospects of the Banks"
·	Nguyen Thu Ha ······ 29
1-2	"Evaluation of Financial Situation of Enterprises (especially SOEs) and Factors Affected their Relationship with Banks and with the Government"  Nguyen Duc Tang
1-34	A "Influence Estimation of Vietnamese Currency Decrease on the Foreign Assets and Foreign Liabilities of Banking System and Enterprises" Nguyen Thi Thu45
1-31	3 "Impact Assessment of Vietnamese Dong's Depreciation on US Dollar- Denominated Assets and Liabilities of Banks and State Owned Enterprises"  Do Minh Tuan
I-4/	A "Assessment of Objectives and Impact of the Contextual Solutions of the State Bank and the Government of Viet Nam in order to Reduce Financial Difficulties of State-owned Enterprises (SOEs) and Banks"  Nguyen Ngoc Bao 61
I-4I	3 "Assessment of the Purpose and the Influence of the Stopgap Solutions of the State Bank of Viet Nam and the Government to Minimize the Financial Difficulties of State-owned Enterprises and Banks"  Nguyen Van Sau
1-5	"Assessment of the Purposes and Effects of ad-hoc Solutions Made by the State Bank of Viet Nam to Strengthen Foreign Exchange Management" Chu Thi Hong Minh
I-6	"Review the Solution Adopted to Restore and Consolidate the Financial
	Sector"  Duong Thu Huong 87
I-7	"Obstacles in Setting up a Securities Market in Viet Nnam"

## 第2章 金融セクター改革の政策研究

11-1	1 ヴィエトナムにおける金利政策は経済の発展段階に照応しているか				
		渡辺	愼一115		
11 -5	アジア金融危機のヴィエトナム金融セクターに対する含意				
		外山	設一 125		

## 総目次

## 第1卷 総論· 産業貿易

まえがき

藤田 公郎

序文

石川 滋·Nguyen Quang Thai

#### 概略報告

- 1 はじめに
- 2 総論
- 3 産業貿易
- 4 財政金融
- 5 農業農村開発

#### 総論

1 "General Assessment of Certain Economic Issues in the Current Renovation"

Nguyen Quang Thai

2 経済システム改革とシナリオ作りの重要性 一中越の経験比較による考察一

石川 滋

## 産業貿易

1 "Industrial Promotion in the New International Economic Environment"

大野 健一 • Pham Quang Ham

2 "Industrial Development of Viet Nam in the Context of Integration"

Pham Quang Ham

3 貿易自由化のインパクト -輸入浸透・価格変動・貿易転換の可能性-

大野 健一

4 "Analysis of Tariff Policies and the Path of Integration of AFTA, ΛΡΕC and WTO: Obligations of Commitments to Trade Liberalization"

Nguyen Van Chi

5 "Identification of WTO Inconsistent Policies"

Dao Huy Giam . Vu Quang Minh

6 アジア危機の貿易・直接投資関連政策に対する影響: 東アジア諸国の対応とヴィエトナムの課題

木村 福成

7 "Viet Nam's Textile and Garment Development Directions"

Do Huu Hao

8 ヴィエトナムにおける SME (中小企業) の特徴

小阜川 護

9 ヴィエトナムの国営企業グループ:その概要と中国との比較

丸川 知雄

10 "International Merchandise Trade Statistics in Viet Nam"

Tran Thi Hang

## 第2卷 財政金融

序論

1 金融部門の現状と改革課題

渡辺 愼一 · Le Quoc Ly

2 ヴィエトナムにとっての資本規制政策-東南アジアの金融危機から学ぶ教訓-

堀内 昭義

#### 第1章 金融システムの現状と政策課題

I − 1 "Evaluate Current Financial Conditions and Prospects of the Banks"

Nguyen Thu Ha

I-2 "Evaluation of Financial Situation of Enterprises (especially SOEs) and Factors Affected their Relationship with Banks and with the Government"

Nguyen Duc Tang

 $1-3~\mathrm{A}$  "Influence Estimation of Vietnamese Currency Decrease on the Foreign Assets and Foreign Liabilities of Banking System and Enterprises"

Nguyen Thi Thu

I – 3 B "Impact Assessment of Vietnamese Dong's Depreciation on US Dollar-denominated Assets and Liabilities of Banks and State Owned Enterprises"

Do Minh Tuan

I – 4 A "Assessment of Objectives and Impact of the Contextual Solutions of the State Bank and the Government of Viet Nam in order to Reduce Financial Difficulties of State-owned Enterprises (SOEs) and Banks"

Nguyen Ngoc Bao

I - 4 B "Assessment of the Purpose and the Influence of the Stopgap Solutions of the State Bank of Viet Nam and the Government to Minimize the Financial Difficulties of State-owned Enterprises and Banks"

Nguyen Van Sau

1-5 "Assessment of the Purposes and Effects of ad-hoc Solutions Made by the State Bank of Viet Nam to Strengthen Foreign Exchange Management"

Chu Thi Hong Minh

1-6 "Review the solution Adopted to Restore and Consolidate the Financial Sector"

Duong Thu Huong

I − 7 "Obstacles in Setting up a Securities Market in Viet Nam"

Tran Cao Nguyen

#### 第2章 金融セクター改革の政策研究

Ⅱ-1 ヴィエトナムにおける金利政策は経済の発展段階に照応しているか

渡辺 愼一

Ⅱ-2 アジア金融危機のヴィエトナム金融セクターに対する含意

舛山 誠一

## 第3巻 農業農村開発

1 経済危機と農業:ヴィエトナムへの教訓

原 洋之介

2 "Outline of Chapter"

Phan Doanh

3 ヴィエトナム農業・農村発展の新方向-JICA ヴィエトナム・フォローアップ・プロジェクトにおける論点-

泉田 洋一

4 "The State of the Vietnamese Rice Economy"

Nguyen Sinh Cuc

5 "Structure of Rice Production in Viet Nam"

Le Van Minh

6 "The State of Production and Living of Landless and Land-Lacking Households in the Mekong River Delta"

Nguyen The Nha

7 "Issues of Post-Harvest in Rice Production of Viet Nam"

Nguyen Kim Vu

8 "Rice Market in Viet Nam"

Nguyen Tien Manh

- 9 "To Strengthen the Service Institutions Supporting Agriculture and Rural Areas"

  Nguyen Van Tiem
- 10 メコンデルタ地域カントー省における米穀経済に係る小規模調査

西谷 光生

- 11 "Distribution, Processing and Marketing of Rice in the Mekong Delta, Viet Nam"
  Can Tho University
- 12 "The Rural Credit Systems in the Mekong Delta, Viet Nam"

Can Tho University

日越共同研究アカデミックス・グループメンバー 編集委員会メンバーリスト



# 財 政 金 融

. .

## 金融部門の現状と改革課題

## 渡辺 慎一 国際大学

Le Quoc Ly
Ministry of Planning and Investment

## フォローアップ・プロジェクトの背景

アジア危機が勃発してほぼ2年が経った。タイの通貨危機で始まった危機は、まずアセアン諸国、韓国へ、続いてラテン・アメリカ、ロシアへと、通貨投機の標的になりやすい条件をもった国々へ次々に拡がっていった。しかしながら、通貨危機から始まった経済・社会一般の危機は、危機が生ずる前には、これから何十年にも渡って世界経済の成長センターになると広く信じられていた東アジアおよび東南アジア地域に、どこよりも大きな打撃を与えることになった。深刻な景気後退からは抜け出しつつあるものの、景気回復後の経済成長の見通しは、危機以前に比べて大幅に低下し、はたしてそれが今後世界経済の成長センターとしての役割を果たすことができるかどうかは、全く不透明になった。

このような、アジア地域の将来に関する成長見通しの大幅な低下は、ヴィエトナム経済の成長見通 しに対して直ちに次のような影響を及ぼす。

- (1) アジア地域の輸入需要の減少により、ヴィエトナムの輸出伸び率は低下する。また、貿易収支上の制約から、輸出伸び率の低下は、工業化に必要な資本財や原材料の輸入能力の低下を意味する。すなわち、需要面、供給面の両面から、ヴィエトナム経済の成長見通しは、大幅に下方修正されなければならない。
- (2) ヴィエトナムを含むアセアン地域全体の期待成長率が低下すると、ヴィエトナムを含むアセアン地域全体への、域外からの直接投資は減少する。更に、ヴィエトナムの場合には、タイやシンガポールなどアセアン域内からの直接投資も減少する。海外からの直接投資に支えられた投資が低迷すると、投資/GDP 比率が低下し、そのために、ヴィエトナム経済の成長率は低下する。
- (3) 成長率、輸出入、直接投資の低下というマクロ指標が悪化すると、一般に、ミクロ経済レベルでのビジネス環境も悪化する。多数の企業が、販売額の低下、輸入や債務返済に必要な外貨の入手困難、合弁事業に対するパートナー探しの困難などの問題に直面し、事業計画の見直しを余儀なくされる。売り上げの急増を見込んで、多額の借り入れによって投資を行ってきた企業は、非常に資金繰りが厳しくなり、そのため企業の存続そのものが危うくなる。

こうした実体経済の困難は、金融部門にも深刻な影響を与えざるを得ない。マクロ経済情勢が大き く悪化すれば、多くの企業が債務を期限どおりに返済できなくなる。個別企業がすでにさまざまな問 題を抱えている場合には、経営環境の悪化は、そのまま債務返済能力の低下になる。銀行サイドからすれば、そのために、債権回収が困難になり、その保有資産の質が悪化する。それだけでなく、資金繰りが悪化した企業を助けるために追加的融資を行うような場合には、それによって、更に、資産の質が劣化する。

JVJR のフェーズ2の最終報告書で、経済発展を持続的なものにするためには、金融部門の更なる改革が不可欠であることを繰り返し強調した。われわれのこのような主張は、ヴィエトナムの金融部門の状態に関する、次のような現状評価に基づいていた。ヴィエトナムの金融部門は、依然として、金融抑圧モデルによって最も良く近似されるような状態におかれている。金利規制などの諸規制によって、金融部門はその発展を妨げられており、十分に経済発展に貢献していない。金利規制や貸出規制があるために、銀行には、預金を拡大するインセンティブもなければ、金融仲介機関としての能力を高めるインセンティブもない。また、預金を拡大したり、仲介機能を高めたりするのに必要な資金がない。実際、1997年時点で、銀行およびその他の預金取り扱い機関に預金している家計は家計全体の5%に過ぎなかった。これは、銀行業の活動が最低水準に落ち込んだ 1992 – 1993年と全く同じレベルであり、近年の銀行改革が社会の草の根にまで届いていないことを表わしている。経済発展を持続させるためには、このような状態は早急に是正されなければならない。そのためには、銀行部門の発展を促し、かつ、それが可能であるように、銀行部門の活動に対する規制・監督を作り直す必要がある。それが、われわれの主張であった。

我々は、また、ヴィエトナムに効率的な金融仲介機構と貨幣機構を構築するには長時間を要するで あろうこと、銀行部門改革は他の分野の経済改革、特に国営企業改革と切り離しては、実現不可能で あることを主張した。

しかし、銀行部門の融資活動を活発化させるだけでは、必ずしも状況は改善しない。なぜならば、企業部門の経営状態は不安定性、不透明性が高く、融資の健全性に関する評価が銀行にとって困難だからである。つまり、銀行融資を闇雲に活発化させ、需要に応じて融資を拡大するのは「ソフト・バジェット化」につながりかねないのである。こうした状況を打開することは、必ずしも容易ではない。しかし、国営企業を中心とする企業部門の経営内容の透明度を高める制度改革を早急に進め、融資の健全性を評価できる体制を構築することが、銀行融資拡大のもっとも重要な前提条件となる。(最終報告書、第3巻、p.122, 1998年3月, 堀内他)。

このようなフェーズ2における主張は、アジア危機の発生によって、ますます緊要性を帯びたものになっている。国営企業に対するソフトな予算制約、それが原因になって生ずる銀行部門の保有資産の劣化、金融システム全体の不安定化、これらの問題を解決していくための実際的な政策と手段を、早急に発見・開発しなければならない。そのためには、銀行部門だけを見ていたのでは不十分であり、銀行、国営企業、政府、3者の相互依存関係を注意深く研究しなくてはならない。これが、金融部門改革のフォローアップ・プロジェクトの背景にある問題意識である。

本稿末に、金融部門改革のフォローアップ・プロジェクトのために執筆された 11 の論文が掲載してあり、1から9までの番号が付けられている。本稿の目的は、この11本の論文に基づいて、ヴィ

エトナムの金融システムの現状と政策課題を総合的に評価し、今後の研究課題を示すことにある。本稿は3部からなる。ヴィエトナム側メンバーによる9本の論文を基礎に、ヴィエトナムの金融部門の現状を分析し、そこから政策課題を摘出した第1部が本稿の中心である。第2部では、進行中の金融改革のもつ問題点に関して日本側メンバーが書いた2本の試行的な論文に基づいて、今後の政策課題について検討する。第3部では、第1部、2部の議論を受け、今後の政策と研究課題について述べる。

## 第1部 金融システムの現状と政策課題

第1部は4節から成っている。まず、第1節では、銀行および企業(特に国営企業)の財務状態の評価を行う。第2節では、政府およびヴィエトナム中央銀行(中央銀行)が、国内の銀行や企業に対するアジア危機の影響を緩和しようとして実施した、さまざまなアド・ホックな措置を評価する。第3節では、中長期的な視点から、現在までに実施された金融部門の構造改革のための政策を検討する。第4節では、アド・ホックな緊急避難的政策と中長期的な構造改革政策の関係について論じる。

#### 第1節 銀行および企業の財務状態

バックグランド・ペーパーのうち、論文1と論文2は、銀行、企業(特に国営企業)それぞれの財務状態と、その相互依存関係を検討している。論文3Aと論文3Bはドン安(ドンで測ったドルの為替レートの上昇)が銀行および企業の財務状態に与える影響を検討している。本節の議論は、主に、これら4つの論文に基づいている。

#### I.銀行の財務状態

銀行の財務状態はどうなっているだろうか。1998年の商業銀行全体の自己資本利益率(ROE)は 4.9 %、資産利益率(ROA)は 0.6 %であった。数値の一貫性は明らかでないが、これらの数値はフェーズ 2 の最終報告で報告されたものよりずっと低い。 しかしながら、より問題なのは、これらの利益率が、信用リスクを十分に考慮しておらず、そのために、財務状態の実態をかなり過大評価している可能性があるということである。1998 年末時点で、商業銀行全体の延滞債権比率は 9.5 %であり、その多くが、延滞期間が 1 年以上になる不良債権であった。 しかしながら、不良債権に対する準備金は十分に積み立てられておらず、これらの信用リスクを適切に考慮すれば、1998 年の利益率は、むしろマイナスであった可能性が高い。

さらに、銀行部門においては、銀行間の外部効果が非常に大きいため、全体の平均値で現状を評価すると、実体を把握しそこなってしまう。規模が小さく、不安定な銀行が、その規模とは不釣り合いなほど大きな不安定化効果を、銀行部門全体のパフォーマンスに及ぼす可能性があるのである。このため、銀行部門の最も弱い部分に、十分な注意を払う必要がある。

1998年の延滞債権比率は、国営商業銀行が8.2%、株式銀行が15%、外国銀行およびそれとの合弁銀行が2.3%であった。株式銀行の財務状態が際立って弱いことがわかる。中央銀行は、1998年

6月末に株式銀行の財務検査を実施したが、その結果、いくつかの銀行が驚くほど高い信用リスクを抱えていることが判明した。株式銀行52行中、延滞債権比率が20%を超えるものが10行、50%を超えるものが4行、90%を超えるものが2行あった。1 これらの数値は、いくつもの株式銀行が1998年半ばに、すでに、著しい債務超過の状態にあったことを示している。こうした実質的に破綻してしまった銀行を存続させると、その機会費用が極めて高くなることは、よく知られている。特に、政府が暗黙のうちに預金を保証しているような制度的環境では、銀行経営陣のモラルハザードの問題が発生するために、破綻銀行の処理コストは、累積的に高くなる。不良債権の穴埋めをするために過度にリスクの高いプロジェクトに信用を配分したり、問題の表面化を怖れて、問題の処理を先送りしたりする傾向が生まれるためである。

しかし、実質的に見て破綻が明らかな銀行が、どのようにして存続しえたのか。その債権の多くが 返済されない銀行が、どのようにして通常の業務を継続し、預金の払い戻し要求に必要な資金繰りを つけることができたのか。これらの疑問は、そのまま、銀行の監督体制のあり方に対する疑問でもあ る。監督当局は、どのような仕組みで破綻の可能性のある銀行を発見し、どのような仕組みによって 問題を解決しようとしてきたのだろうか。監督当局側には、問題を先送りするインセンティブは働か なかったのだろうか。

金融規制に実効性を持たせることの難しさを示す一つの良い例が最低資本金に関する規制である。 1993 年 11 月 27 日付の回状第 223/QD-NH5 は、新設される非国営商業銀行の最低資本金を規定した。その額はホーチミン市の株式銀行が 700 億ドン、ハノイ市の株式銀行が 500 億ドン、その他の都市部の株式銀行が 200 億ドン、農村部の株式銀行のうち、支店を有するものが 30 億ドン、支店をもたないものが 10 億ドンであった。既存の銀行はこの最低資本金に関する規制を 3 年以内に達成することが要求された。 しかし、例えば、ホーチミン市では、1998 年末時点で、17 行ある株式銀行のうち 8 行しかこの条件を満たしていなかった。

#### 11. 企業の財務状態 -

銀行部門が抱える信用リスクは、最終的には借手がどのようなリスクをとるかに依存し、また、借手が返済不能に陥ったときに銀行が負担する損失の大きさは、返済不能になった借手の債権債務関係を規定する法的枠組みやその執行体制に依存する。支払が遅延している借手に対して、銀行が貸手としてどのような権利をもつかは、借手の性質に大きく依存する。借手の所有関係に関しては、国営商業銀行と非国営商業銀行(株式銀行、外国銀行との合弁銀行、外国銀行の支店)の間に、かなり大きな相違がある。国営商業銀行に比べ、非国営商業銀行は国営企業以外への信用供与の割合が大きい。政府を除く経済主体への融資に占める国営企業向け融資の割合は、国営商業銀行が57.5%、非国営商業銀行が38.5%であった。6 したがって、非国営商業銀行銀行は非国営企業の財務状態により大きく影響される。

論文 2 は国営企業の 1997 年の財務成績を報告している。国営企業の 40 %が黒字、44 %が収支尻 ゼロ、16 %は赤字であった。黒字を出している国営企業は、資本の規模で見ると、国営企業全体の 資本の 71.5 %を占め、また、税など、政府収入への貢献という点から見ると、国営企業全体で政府 に納める税などの 82.6 %を占めた。国営企業部門全体のバランスシートについてみると、債務/自己資本比率は 128 %、債務のうち 64 %が長期、29 %が短期であった。また、売掛金/自己資本比率は 50 %であった。

128%という債務/自己資本比率の平均値の解釈には、注意が必要である。この数字自体は、それほど大きくないが、例えば、フェーズ2における国営企業部会のケース・スタディーや、今回のフォローアップ調査によれば、多額の債務を抱え、300%を超えるような債務/自己資本比率を持つ国営企業の数は多く、債務/自己資本比率が2000%以上もある国営企業すら存在する。「これらレバレッジの高い国営企業は、売上高成長率の低下や、金利リスク、為替リスクに対して、極めて脆弱であり、少しのショックでも債務超過になりやすい状態になっている。

財務状態が不安定なのは、国営企業に限らない。系統的に集められたデータはないが、論文 2 は、多額の企業間債務のために、民間企業(外資系企業を除く)の財務状態が極めて不安定になっていると指摘している。すなわち、多くの小規模な民間企業が、国営企業を含む他の取引企業に対して、多額の支払い遅延を発生させている。企業間債務の延滞の原因としては次の 2 点が指摘されている。 1 つは、支払いを強制したり、延滞を罰したりするための、はっきりした法的メカニズムが欠如していること、もう1つは、民間企業の銀行へのアクセスが極めて限られていることである。 2 この 2 つの理由から、民間企業は、できる限り手元流動性を高くするように努力し、また、延滞に対する罰則が緩い限り、仕入先企業への支払いを遅らせようとしている。こうして企業間債務が次第に膨らんでいく傾向があるために、効率的な企業と非効率な企業の区別があいまいになって、実質的には経営破綻している非効率な企業が、そのまま経営を続けている。この結果、企業間の債権・債務関係の内容が不安定になっており、外的ショックによって、連鎖的に支払不能が生ずる可能性がある。

#### Ⅲ. 為替リスク

アセアンの主要メンバーである4ヶ国の通貨(バーツ、ベソ、リンギット、ルピア)の為替レートがドルに対して大幅に下落すると、ヴィエトナム通貨ドンにも強い切下げ圧力が働くようになった。しかし、海外の資本市場との統合が進んでおらず、為替取引にも多くの制限があったため、ヴィエトナムでは、これらアセアン4ヶ国とは異なり、通貨ドンが短期間に暴落し、金融危機を引き起こすといった事態は生じなかった。とはいえ、1996 年末から 1998 年末の 2 年間に、ドン/ドルレートは 1ドル=11,200 ドンから 1 ドル=13,900 ドンへと約 24 %上昇した(ドン安になった)。通貨危機以前から企業に対する銀行信用のかなりの部分がドル建てになっていたことを考えると、24 %のドンの切り下げは、銀行や企業の財務状態にかなりの影響を及ぼしているはずである。論文 3 A と 3 B は、その影響を検討した。

銀行部門(中央銀行を含む)が非居住者に対して保有する外貨建てポジションは、ネットでプラスであり、その額は、1996年の13億ドルから1998年には23億ドルへと増加した。他方、銀行部門(中央銀行を含む)が居住者に対して持つ外貨建てのポジションは、ネットで、1996年の5億ドルから1998年の4億ドルに減少した。これは、外貨建て融資が1996年の17億ドルから1998年には14億ドルへと減少したのに対し、外貨建て預金は同期間に12億ドルから18億ドルへと増加したためである。従って、居住者、非居住者を合わせると、銀行部門(中央銀行を含む)のネットの外貨ポジショ

ンは、1996 年 18 億ドル、1998 年 19 億ドルと常にプラスになっている。従って、ドン安は、銀行部 門全体についてみると、為替差益をもたらす構造になっている。

しかしながら、為替差益の配分は中央銀行と商業銀行の間で、非常に異なっている。1995 年から 1997 年 9 月の間、商業銀行の外貨建て資産と外貨建て負債はほぼ同額で、ネットの外貨建て資産はほぼゼロであった。したがって、その間、ネットの外貨建て資産の値がプラスであることによる為替差益は、もっぱら中央銀行に帰属したと言える。ドンの切り下げ期待が強くなった 1998 年には、このコントラストはより著しくなった。商業銀行が 6,000 億ドンの為替差損を抱える一方で、中央銀行は 3.7 兆ドンの為替差益を計上した。19

為替レートの変化は、銀行部門の保有する外貨建て資産および負債の値を直接変化させるだけでなく、更に、借手のバランス・シートや利益に対する影響を通じて、間接的に銀行部門のバランス・シートや利益に影響を及ぼす。為替レートの変化が借手のバランスシートに与える影響を見ると、銀行からの借手と銀行への預金者が同一であれば、すでに見たように、1998年には、借手=預金者は、為替差益を手にしたはずである。"しかし、借手と預金者が異なると、その程度に応じて、借手には為替差損、預金者には為替差益が生ずる。実際、外貨建ての借入を行っている企業は、企業部門に一様に分布しているわけではない。他の企業や産業に比べて、高い為替リスクにさらされている比較的少数の企業や産業が存在する。例えば、セメント、石油製品、製鉄、紙、綿製品、電力などの産業の企業は、多額の外貨建て債務を抱えており、直接の証拠はないが、ドン安によって大きな為替差損を被っていると推測できる。また、これらの産業は、輸入依存度が極めて高いため、ドン安によって輸入コストが増加しており、利益が大きく減少(または、損失が拡大)していると推測される。銀行部門の抱える延滞債権や不良債権比率の増大の背景には、このようなドン安による為替差損や利益の減少によって、債務の返済に問題を生じている企業が存在するものと思われる。"

また、中央銀行の対外負債は、短期負債しか含んでいないことに留意する必要がある。政府の中長期対外債務(政府保証付債務を含む)は1996年末で48億ドルに達しており、その額は、中央銀行の対外純資産17億ドルをはるかに上回っていた。したがって、政府と中央銀行を合わせた政府部門全体としての対外ポジションを考えれば、ドン安によって、ドンで測った対外債務負担は大きく増加し、大きな為替差損が生じていたことになる。

## 第2節 信用リスクと為替リスクを軽減するためのアド・ホックな措置

第1節の分析は、銀行、企業双方の財務内容が脆弱であること、両者の脆弱性が相互に依存しあっていること、その結果、ヴィエトナム経済の基盤が、潜在的に、非常に非効率で不安定になっていること、などを示している。このような事態の展開に対し、政府と中央銀行はさまざまなアド・ホックな措置をとることによって、銀行や企業の財務内容の悪化が、企業経営の破綻や生産活動の停滞にそのままつながってしまうのを食い止めようとしてきた。本節では、これらのアド・ホックな措置を検討する。

1997年春以降、政府と中央銀行は、国営企業の財務的な困難を緩和するために、一連のアド・ホッ

クな措置を実施した。論文 4 A と 4 B は次々と打ち出されたこれらの措置を整理、検討している。" アド・ホックな措置の多くは、国営企業の延滞債務の支払を繰り延べ、銀行の延滞債権を正常債権へ 転換するための条件を規定したものである。それによって、短期的、表面的には、銀行および国営企 業の財務状態を改善した。しかし、これは明らかに問題の先送りに過ぎず、長期的には不良債権問題 をより深刻にし、アジア危機後の新たな市場環境に対する国営企業の調整を遅らせてしまう可能性す らある。

#### T 信用リスクを軽減するためのアド・ホックな措置

1997年5月6日付決定第49/CP-m および1997年5月31日付文書第417/CV-NH14は銀行の貸出業務に関するいくつかのブルーデンス規制を停止した。国営商業銀行は無担保でも国営企業に融資できることになり、また、国営企業の債務/自己資本比率が100%を超す場合や、利益を上げていない場合でも、国営企業の生産計画や投資プロジェクトが効率的であると考えられる場合には、新規融資をしても良いことになった。レバレッジが高く、利益を上げていないような企業の生産計画や投資プロジェクトを、どのようなときに効率的と判断するのかが問題であるが、監督責任をもつ政府機関が生産計画や投資を承認していれば、効率的であるとしている。市場環境が急速に変化しているときに、このような行政的な基準を信用配分に待ち込めば、長期的には、信用配分の歪みが加速度的に大きくなることは不可避である。

1997年8月27日付指示第09/CT-NH1によって、銀行に対して国営企業が負っている債務の返済期日の繰り延べが認められた。特に、期限までに債務の返済ができなくても、「効率的に」操業している国営企業は、その短期債務を中長期債務に、中期債務を長期債務に転換することが認められた。

1997年11月22日付回状第03/1997/TTLT/NHNN-TCでは、洪水、干ばつ、台風などの自然災害のために、借手が債務の返済ができなくなった場合は、銀行は、それらの債務の返済期日を将来に繰り延べたり、償却したりすることが認められた。"

また、文書第 433/CV-NH14 は、国営企業が社会的に重要な役割を果たしている場合には、銀行に対する債務の返済を繰り延べることを認めた。また、政府の政策の変更や国営企業の閉鎖によって、債権が回収できない場合には、銀行は、不良債権を封鎖勘定に移し、政府に支払を求めることができるものとしている。また、文書第 433/CV-NH1 は、自然災害や国営企業の破綻により回収不能となった不良債権の償却を認めている。

1998年10月3日付指示第08/1998/CT-NHNN14は、国営企業の債務負担を軽減するための様々な方法を記している。財務難に陥った国営企業は、まず元本だけを返済し、金利の支払いは後にすることが認められた。また、元本が返済でき、利払いができるのであれば、延滞しても、延滞に対する追加的な罰則金利の支払いを免れることができるものとした。さらに、赤字を計上し、債務返済が不可能な場合には、返済期日を延長してもよいことになった。

1997 年 9 月 8 日付政府書簡第 309/KTTH-Tym は、国営企業の資金不足を緩和するため、国営企業に建設投資資金、運転資金を追加供与することにした。

銀行の財務上の負担を軽減するため、1999年1月1日より、銀行の所得税率は 45 %から 32 %へ引き下げられた。

銀行融資に占める国営企業への融資の割合は1990年代に漸減したが、1998年には、1997年の49.6 %から53%へと増加に転じた。国営企業の財務上の困難を緩和するために実施されたさまざまアド・ホックな措置の反映であると思われる。これによって、国営企業は経営破綻を免れることができた。しかし、機会費用が存在しなかったわけではない。民間企業に対する信用のアベイラビリティは更に厳しく制限された。また、債権の返済期日を延期することによって、短期的には延滞債権比率は低下したものの、財務難の国営企業への追い貸しが増大したことによって、銀行が抱える潜在的信用リスクは高まっている。

国営企業の財務難を軽減するためにとられたアド・ホックな措置の最大の問題は、事実上、行政的な許認可を受けているかどうかによって、生産計画あるいは投資計画の効率性を評価している点にある。このようなメカニズムは、問題を先送りし、最終的な財政負担が増やしてしまうだけでなく、企業部門の投資活動の調整を遅らせ、成長経路を非常に不安定で、非効率なものにしてしまう危険が大きい。15

#### Ⅱ. 為替リスクを軽減するためのアド・ホックな措置

外国為替取引は、1988年10月18日付政令第161/HDBTおよび1994年8月4日付決定第396/TTgにより規制されてきた。しかしながら、これらの規制は、ドンの切り下げ期待にともなう外貨(とりわけ米ドル)の退蔵を防ぐのに効果的ではなかった。外為市場の取引高は1997年2月の週間平均3百万ドルから1998年2月には20万ドルへと減少した。ドルの市場への供給は実質的にゼロとなったわけである。論文5は、このような事態に直面した政府および中央銀行が、外国為替取引と対外借り入れの管理を強化するために実施したアド・ホックな措置を整理、記述している。

外為市場における取引の活性化と米ドルの投機的保有を防ぐために、一連の規制が導入された。 1998年2月14日付決定第37/1998/QD-TTg、1998年8月6日付決定第267/1998/QD-NHN N7、1998年9月12日付決定第173/1998/QD-TTg、1998年12月1日付決定第232/1998/QD-TTg などがそれである。外貨保有に対する規制は次第に厳しくなっていった。決定第232は企業に対し、銀行の外貨口座で受けとった外貨の80%を即座に銀行に売り渡すことを義務付けた。"

貿易金融の分野では、1996年の段階で、すでに深刻な問題が生じた。1996年に、バランス・シートに載らない、新しい手数料収入の方法として、支払猶予付き信用状の発行が急増したのである。それが、近い将来、銀行の財務内容に与える影響や、安易な輸入増につながる効果などについて大きな懸念が持たれるようになった。また、1997年には、VP銀行と Viet Hoa 銀行の各々が開設した信用状の取り扱いをめぐって、それらの銀行と韓国の銀行との間で紛争が起きた。"こうした事態の展開

に対し、政府と中央銀行は、支払い猶予付きの信用状の発行規制を強化することに決め、1997年7月1日付決定第207/QD-NH7、1997年9月24日付決定第802/TTg および1997年12月4日付回状第07/1997/TT-NHNNなどの諸規制が実施された。また、これらの規制は、信用状の発行に関わる関係者各々の責任を明記し、紛争を未然に防ぐことをも目的としていた。これらの措置の効果もあって、銀行保証の裏付けをもつ短期対外債務と支払猶予付き信用状の発行は、1997年、1998年と大幅に減少した。

## 第3節 金融部門の構造改革(実施済みのもの)

第1節、第2節で観察したさまざまな事実は、伝統的小農経済から近代的工業経済への移行という 経済開発の課題と、中央計画経済(国庫補助制度)から市場経済への移行という「移行経済」の課題 という、ヴィエトナムが直面している2つの課題が持つ困難の特質を改めて浮き彫りにしている。第 1の特質は、民間企業の経営の不安定性と、それを反映した株式銀行の財務内容の不安定性に、2つ の移行過程の困難が、一番顕著に現れているという事実である。民間企業と株式銀行の発展を支える 社会的・制度的基盤が、整備されていないと言いかえることもできる。第2の特質は、国営商業銀行 と国営企業の財務的な困難を緩和するために多くのアド・ホックな措置が採られたことに見られるよ うに、国際的な市場環境への適応という課題を、問題を先送りすることによって、行政的に「解決」 しようという傾向が非常に強いという点である。

債務返済の繰り延べなどのアド・ホックな措置は、財務上の困難を抱えている企業の資金繰りを一時的に助けることがあったとしても、財務的な困難の基本的な要因を変化させるわけではない。しかしながら、これらの措置は、政策立案者、銀行、企業などに、必要な構造改革のプランを作り、実施するための、限られた時間を与えている。本節では、政府と中央銀行が、時間との競争のなかで、金融部門の構造改革の問題にどのように取り組んできたかを検証する。議論の多くは、論文1、論文4A、論文6および論文7に基づいている。

#### I. 金融規制および監督の制度インフラの整備

中央銀行法および信用機関法が、1997年12月26日に発布され、1998年10月1日から発効した。 この2つの法律のもとで、中央銀行は、ブルーデンス規制を強化し、銀行経営を安定化するためのさ まざまな措置をとってきた。論文6は、銀行業務に付随した様々なリスクの計測、管理、監視の制度 的枠組み作りが、どのように進んでいるかを記述している。

中央銀行総裁による 1999 年 2 月 8 日付決定第 48/1999/QD-NHNN 5 は、債権の分類の仕方、貸し倒れ準備金の積み方、不良債権の償却の仕方などに関する指針を示している。決定第 48 は、銀行の信用リスク管理能力の向上を狙いとして、延滞債権の分類に関する 1996 年 11 月 13 日付決定第 299/QD-NH 5 を改訂したものである。

1997年7月12日付政府書簡第3449/KTTHは、貸倒引当金の積み増しを、銀行が経費として計上することを認めた。これによって、貸倒引当金に所得税がかからなくなり、銀行は、将来発生し得

る貸し倒れリスクに対して積極的に準備金を積めるようになった。

1998年8月27日付決定第292/1998/QD-NHNN5は、株式銀行各行のリスクを評価するための基準と、問題を抱える銀行を見出すための基準を規定している。各行は、いわゆる CAMELの5 つの基準毎に点数を付与され、総合点の大きさによってA(最良)からD(最悪)の4つのクラスに分類される。この評価基準は、株式銀行の自己査定にも、中央銀行による検査にも用いられる。18

企業および銀行の会計制度においても重要な前進が見られた。1995年11月1日付決定第1141/TC/QD/CDKT (1996年1月1日発効)は、企業の価値をより精確に評価し、市場経済における様々な要請に応えるための新しい企業会計制度を作りだした。借手の財務状態に関する信頼できる記録なしに、効率的に資金を配分する銀行部門を作り出すことは不可能である。全ての国営商業銀行および一部の株式銀行はすでに外部監査を受けている。国営企業にも外部監査が義務づけられているが、多くの場合まだ努力目標にとどまっており、実際に外部監査を受けている企業の数は少ない。

#### Ⅱ. 株式銀行部門の構造改革

第1節で見たいくつかの数字は、株式銀行部門で、徹底した構造改革が必要なことを示していたが、政府と中央銀行は、構造改革に向けて、様々な措置をとってきた。ホーチミン市における株式銀行部門を強化するための1998年5月19日付決定第96/1998/QD-TTg、統合合併に関する1998年7月15日付決定第241/1998/QD-NHNN5、などである。1998年半ばに実施された中央銀行の検査の結果を受け、1998年9月には、Nam Do銀行および Mekong銀行が閉鎖された。それを皮切りに、以降、株式銀行部門の整理、統合、再編が徐々に進んでいる。

中央銀行は、株式銀行部門の統合、再編を更に進めるために、1998 年 10 月には、株式銀行の最低資本金を定め、2001 年 10 月までに、それを達成することを義務づけた。ホーチミン市とハノイ市にある株式銀行の最低資本金が 700 億ドン、それ以外の都市については、500 億ドンとされた。2001 年 10 月までにこの基準を達成できない株式銀行は、閉鎖されることになっている。 1999年 3 月には、Dong A 銀行が Long Xuyen 商業銀行買収した。中央銀行による評価でクラスAに分類されているPhuong Nam 銀行は、すでに1997 年に Don Thap 銀行を買収していたが、1999 年 5 月には、多額の不良債権に苦しんでいた Dai Nam 銀行を吸収した。"

#### Ⅲ. 国営商業銀行の改革

どのような組織であれ、ある程度の歴史をもった組織を、新しい社会環境の必要に合わせて改革することは、新たなリーダーシップと、新たな意思決定ルールのもとで、全く新しい組織を設立するより遙かに難しい。この一般的な法則は、中央計画経済の下における意思決定のルーティーンと、政府や国営企業との関係を引き継いだ国営商業銀行にも当てはまる。商業銀行が果たすべき機能の明瞭な定義と、それを果たすための徹底した組織と人事の改革が必要である。後者に関しては、銀行経営トップの交代を含む組織と人事の改革に一定の前進が見られるが、より本質的な、国営商業銀行の機能に関しては、まだ多くの曖昧さが残っており、そのために、組織と人事の改革も中途半端なものにとど

まっている。

国営商業銀行の機能や組織の改革と自己資本の増強とをどう結び付けるかは、世銀などとの一つの 争点になっていたが、政府は、1998年9月24日付決定第859/QD-TTgによって、資金注入を先 行させることにした。国営商業銀行の資本金が、1998年10月3日付政令第82/1998/ND-CPで 要請される基準をはるかに下回る過小資本の状況になっていたためである。しかし、基準の97%を 達成している Agribankを除き、他の3つの国営商業銀行は、依然として、大幅な資本不足状態に ある。たとえば、IncomBank は基準の73.5%、VietcomBank 72.8%、BIDV 70.3%などとなって いる。

#### IV. 証券市場を育成するための措置

論文7は、証券市場の発展の阻害要因を分析するとともに、証券市場の開設にむけた法制度の整備 状況について記述している。また、銀行システムの発展促進策、証券市場育成策、国営企業の株式会 社化の相互関係について検討している。

基本的には、金融部門全体の発展にとって、証券市場と銀行部門の発展は相互に補完しあう関係にあると言って良い。しかし、圧倒的に優位な銀行部門の存在が、却って証券市場の発展を阻む場合がある。例えば、国営企業が有利な条件で容易に銀行から資金を調達できるような場合には、株式を公開したり、上場したりするインセンティブは非常に弱くなる。すなわち、国営商業銀行が資金繰りに窮した国営企業に対し追加融資を行うことが、アド・ホックな措置によって認められるような状況では、企業の側から株式や債権を発行しようという意欲は生まれてこない。その意味で、ソフトな予算制約の廃止は、証券市場と銀行部門が相互に補完しあって発展するための必要条件である。

1998年7月11日付政令第48/1998/ND-CPは、株式や債券などの証券の発行と証券取引に必要な基本的な法的枠組みを規定している。しかしながら、証券取引所あるいは店頭取引に適格な株式や債権の数が圧倒的に不足しているため、証券市場が有効に機能しうるかどうか依然として不明である。1998年6月29日付政令第44/1998/ND-CPによって、国営企業はより迅速に株式会社化の手続きを進めることができるようになり、株式化された国営企業の数は1998年末には116社に達した。しかしながら、その多くは中小規模の企業であり、その株式は市場で取引されるほどの規模も流動性も持っていない。

#### V. 金融自由化

金利の自由化に向けた努力も続いている。預貸金利の金利差に関する規制は 1998 年に撤廃された。 しかし、貸出金利の上限規制は残ったため、実質的には、預金金利の下限だけが廃止された。論文 4 Aと論文 6 は、移行の現段階では、貸出金利の上限規制は必要であり、国営企業の財務状態が改善す れば上限規制を撤廃することができるとしている。しかしながら論文 6 は金利の上限規制があるため に銀行部門の発展が阻害されているという側面も指摘している。論文 8 は、更に、1995 年以降の金 利自由化のプロセスが、銀行部門の発展を歪めてきたと主張している。 中央銀行は1994年以来、銀行部門が保有する国内資産の伸びを抑制するため、貸出の上限規制を行ってきた。これはインフレの収束に極めて効果的であった。また、政府部門を除く経済主体への貸出額の対GDP比率は、1994年以来、おおむね19~20%で推移した。しかし、1998年には、貸出額の伸びは上限規制にとどかなかった。これは、不良債権問題への懸念による貸し渋りと、成長率の低下による投資需要の下落、という2つの効果が複合した結果である。1999年になって物価が下落しており、貸出の上限規制は機能していない。現在は、マネーサプライを増やすための政策が必要になってきているが、銀行部門の貸出チャンネルを通じるメカニズムは萎縮していて機能していない。それに替わるメカニズムが必要になっている。

貸出業務に関する様々な規制は、1998 年 9 月 30 日付決定第 324/1998/QD-NHNN 1 に統合され、置き換えられた。

#### VI. 外国為替取引の自由化

1998 年 8 月 17 日付政令第 63/1998/ND-CP により外国為替取引に関する新たな法的枠組みが設けられた。取引主体は居住者と非居住者に、外国為替取引は経常取引、資本取引、銀行間取引に、それぞれ分けられている。近い将来、経常取引においてドンに交換性を持たせることを想定した、総合的な法的枠組みを提供している。

1993年8月3日付政令第58/CPが、対外借り入れを規制する制度的枠組みを作ってきた。しかし、実際の効果は限られており、特に短期の対外借り入れに対しては、あまり効果がなかった。そのため、より効果的な規制を目指して、1998年11月7日付政令第90/1998/ND-CPが設けられた。新しい規制の下で、企業は業務上必要であれば、直接、外国から借り入れを行うことができる。しかし、その場合でも、中央銀行の許可が必要であり、資金の取入れおよび債務の返済は、外国為替取引免許を有するヴィエトナム国内の銀行を通じて行わなければならない。

#### 第4節 今後の構造改革の期待とアド・ホックな措置

第1節では、銀行、企業双方の財務内容が脆弱であること、両者の脆弱性が相互に依存しあっていること、その結果、ヴィエトナム経済の基盤が、潜在的に、非常に非効率で不安定になっていることなどを見た。第2節では、企業の財務内容の悪化が企業経営の破綻や生産活動の停滞につながるのを防ぐために、政府と中央銀行が採ったさまざまなアド・ホックな措置を検討した。それに対し、第3節では、市場経済への移行という長期的な観点から実施された金融部門の構造改革の進捗状況を調べた。第2節と第3節の記述を比べてみると、アド・ホックな措置の本質が、問題の先送りであり、第1節で株式銀行に集中的に現れているように見えた不安定性と非効率性は、実は、より深化しつつある、国営商業銀行と国営企業の不安定性と非効率性を反映している可能性があるという事実に気づく。

本節では、数字では、はっきりと掴むことが難しい、国営商業銀行と国営企業の不安定性と非効率 性の可能性を、今後の構造改革に対する期待との関連で検討する。資金繰りに関するアド・ホックな 措置は、現在の資金繰りの問題を緩和するだけでなく、それ以上に、将来、類似の資金繰りの問題が起きたときに、それがどのように解決されるかに関するシグナルを、すべての企業や銀行に送っている。債務の返済負担を軽減するためのさまざまなアド・ホックな措置が送っているメッセージは、「ソフトな予算制約」という中央計画経済の特徴は維持されるというメッセージに他ならない。しかし、このメッセージは、明らかに、ヴィエトナムが指向している長期的な構造改革の方向性、国家財政、金融、企業財務の分離という方向性と矛盾する。銀行や企業は、金融部門が将来どのようになると考えているのだろうか。それを実現するための構造改革とアド・ホックな措置とは、どのように関連するのだろうか。

#### 1. 金融部門の将来像と構造改革

第1節から第3節までの議論の基礎になった9本の論文(特に論文1・6・7)は、すべて、金融 部門の将来像と、それを実現するために今後どのような政策を採るべきかについて、何らかの議論を 含んでいる。改革の主な方向は以下のとおりである。

- (1) 国営商業銀行と国営企業、国営商業銀行と政府(および中央銀行)、政府と国営企業の間に存在する「ソフトな予算制約」を取り除く(論文1・2・6)。
- (2)銀行の金融仲介機関としての組織的能力を向上させ、その財務内容を、信用リスクおよび市場 リスクに対して強靭なものにする(論文1・6)。
- (3) 証券市場の育成を図り、金利を漸次自由化する(論文1・6)。
- (4) 国内金融機関と市場を徐々に国際金融市場と統合する(論文1・6)。
- (5) 経常取引のための外国為替取引を自由化する(論文5)。

これらの条件を満たす金融部門の将来の姿は明瞭である。商業銀行部門は、最終的な貸手と最終的な借手の間に入って、安定した金融仲介サービスを効率的に提供する。国営企業部門や政策的に決められた借手に、政府の決めた条件で優先的に信用を供給することは、商業銀行の機能ではない。銀行部門と並んで、証券市場を発達させ、金利が市場の力で自由に決まるようにする。経常取引のための外国為替取引を自由にする。徐々に、国際的な資本移動を自由化し、国内金融市場と国際金融市場を統合する。ここにあるのは、自由で、安定し、かつ効率的な金融部門という将来像である。

そのような金融部門を作るために、次のような構造改革が必要であると考えられている。

- (1) 預金保険制度などの、透明なセーフティ・ネットの構築(論文6)や
- (2)銀行業務を監視し、ブルーデンス規制に実効性を持たせるために必要な中央銀行の組織的能力 の強化、銀行の財務内容の国際標準による評価(論文1・6)
- (3) 株式銀行部門の整理、再編、資本基盤の強化、金融仲介機関としての組織的能力の強化(論文 1・6)
- (4) 国営商業銀行の業務の効率化、資本の増強(論文1・6)、国営商業銀行1行の株式会社化、 外国銀行への一部株式の譲渡、および、その経営参加による銀行業務と組織の抜本的改善(論 文1)

- (5) 政策的に決定される優遇貸出および特定分野貸出を商業的貸出から分離し、前者の政策金融は、 政策金融専門の金融機関を新たに設立して、それに委ねる(論文1)。
- (6) 担保権の設定、担保権実行、強制執行など、債務が返済されない場合の債権の回収に関わる法 的枠組みを改善し、金融機関の貸出を拡大させる(論文1・6)。
- (7) 債権取引会社、抵当資産の管理・販売会社など、延滞債権の処理に必要な仕組みの創出(論文 1・6)
- (8) 合弁銀行および外国銀行支店に対する差別的な業務制限の撤廃(論文1)
- (9) 国債市場の育成、および公開市場操作に必要な仕組みの導入、整備(論文6・7)
- (10) 国営企業の株式会社化(論文2・7)

これら一連の政策は、安定で効率的な金融仲介機構を作るために必要であると一般に考えられている政策の多くを含んでいる。例えば、世銀 (1989) が金融部門の発展の前提条件として提示した政策の多くを含んでいる。<sup>1</sup>

#### || 構造改革のための政策とアド・ホックな措置の緊張関係

それでは、これらの長期的な構造改革のための政策と、当面の資金難を解消するためのアド・ホックな措置は、どのような関係にあるのだろうか。債務の返済ができなくなった国営企業に返済期日や返済条件の変更を認めるアド・ホックな措置は、必要な場合には国家権力によって債務の返済を強制する、そのような債権回収の仕組みの創出と矛盾するように見える。また、不良債権問題の解決を先延ばしにするアド・ホックな措置は、銀行部門の信用リスクを高め、安定した銀行部門を作るという目標の達成を阻害するように見える。

このような疑問に対し、論文 4 A・論文 4 B・論文 6 は、アド・ホックな措置は、長期的な構造改革の達成を必ずしも遅らせない、と主張している。

論文4A:アド・ホックな措置が実施されたお陰で、国営銀行から国営企業への円滑な資金フローが 停滞せず、経済成長が持続し、多くの失業者が生まれずにすんだ。また、いくつかの企業については、 それによって、株式会社に転換するための資金が入手できた。

論文 4 B: 国営企業制度は大規模な改革の直中にあり、政府はその改革を促進するために資金を提供する必要がある。

論文6:厳しい金融引き締め政策が実施された数年前に、中長期の投資に使われる資金の貸出に、誤って、短期の信用が供与された。文書第417/CV-NH14および指示第09/CT-NH1などのアド・ホックな措置によって、銀行は、国営企業の資金需要をより正確に再評価し、それに基づいて、誤りを正すことができた。従って、アド・ホックな措置によって、銀行の信用リスクは悪化したのではなく、むしろ、低減したのである。

これらの議論は、アド・ホックな措置が、国営企業や銀行のの経営に肯定的な影響を与えたと主張 している。しかし、その主張を支持するような、はっきりした証拠があるわけではない。全く逆の立 場をとることも可能である。アド・ホックな措置は、やはり、国営企業改革を遅らせたのではないか。 国営企業の経営者や従業員は、アド・ホックな措置から、「ソフトな予算制約」が続くという、誤ったシグナルを受け取ったのではないか。アド・ホックな措置を見て、株式会社への転換を止めた国営企業があったのではないか。投資期間と資金の返済期間のミス・マッチを、アド・ホックな措置によって、解消したというのは、一部の例外的な事実を、銀行貸出のすべてにあてはめているだけではないか。しかし、逆の立場にも、はっきりした証拠がない。

繰り返し述べているように、アド・ホックな措置の長期的な効果は、それが長期的な期待に与える 影響によって決まる。銀行や国営企業の経営者が、債務の返済を緩和するアド・ホック措置が、一時 的な措置に過ぎず、将来繰り返されることもないと信じるとすれば、アド・ホックな措置は、確かに、 構造改革を促進するための時間と資金を国営企業に与える。しかし、アド・ホックな措置が、将来も 繰り返されると信じるとすれば、痛みを伴うような企業改革は実行する必要はない、ということにな る。

2つの可能性のうち、どちらの可能性が、現実に近いだろうか。金融部門の将来像の中には、銀行と国営企業のもたれあいの関係は、存在しない。問題は、将来像の実現を、どの位の「将来」においているかであろう。それが20年、30年先であれば、アド・ホックな措置と長期的な構造改革の間にたとえ緊張関係があっても、実際的な重要性はほとんどもたず、アド・ホックな措置はより持続的な関係を反映しているものと解釈されるだろう。

それでは、10年先ではどうだろうか。「将来像」を実現するのに必要な時間は、どのような要因によって決定されるのだろうか。その「時間」は、ヴィエトナム固有の歴史的条件にどれだけ左右されるのだろうか。AFTAやWTOなどの国際環境が要請する「時間」と、ヴィエトナム固有の歴史的社会的要因によって決まってくる「時間」とのギャップは、どのように調整されるのだろうか。構造改革の順序や、進め方によって、「時間」は、大きく左右されるだろうか。"

## 第2部 構造改革の進め方に関する試行的研究

第1部では、金融部門の現状をリビューし、その上で、金融部門の将来像と、それを実現するために必要な構造改革政策について述べた。その際、長期的な構造改革のための政策とアド・ホックな措置の整合性の問題が、金融改革の行方を左右する決定的な問題として浮かび上がってきた。どのような順序で、どのようなやり方で、長期的な構造改革を進めていけば、経営破綻や失業増などの社会的コストを最小限にできるだろうか。どのように構造改革を進めて行けば、アド・ホックな措置が必然的に持たざるを得ない逆行的なシグナルを、きちんとコントロールできるだろうか。また、どのようなアド・ホックな措置であれば、構造改革の進展を妨げずにすむだろうか。

第2部の議論は、これらの疑問のいくつかをとりあげて書いた2つの論文に基づいている。論文8はヴィエトナムにおける金利の自由化とその金融発展へのインプリケーションを検討している。論文9は1997年以降の通貨・金融危機に見舞われているアジア諸国の経済を分析し、ヴィエトナムの金融改革に対する教訓を引き出そうとしている。また、論文9は1970年代末に始まった中国の金融改革についても分析している。

#### 第1節 金利自由化のタイミングと方法

金融自由化の重要な分野の一つは、金利の自由化である。論文 8 は、ヴィエトナムにおける金利の 自由化の進め方が、発展の初期段階にある金融部門にどのような影響を及ぼしたかを分析している。

論文 8 は、現在の金利規制は、銀行システムを不安定化させ、金融深化を阻むものであって、ヴィエトナムの現在の経済発展段階にふさわしくないと主張している。貸出金利の上限は定められているが預金金利の設定は商業銀行の裁量に任されている。情報の非対称性が著しく、ブルーデンス規制を遵守させることが困難な経済では、このような金利規制の下では、必ずと言って良いくらい、一部の銀行が極端な債務超過に陥ってしまう。なんらかの原因で資金繰りが困難になると、当面の資金繰りをつけるために、他の銀行よりも高い預金金利をつけ、それによってさらに収益性を低下させ、長期的には更に資金繰りが悪化する。最悪の場合には、債権はほとんど不良債権ばかりで収益を生まず、高利で集めた預金で既存の預金の利子を支払う、というねずみ講まがいの経営にまで転落する。そのような銀行が少数でも存在すると、銀行システム全体が不安定化し、その発展が阻害される。

さらに、こうした借手の保護を優先した金利規制の下では、銀行は、自己資本を蓄積し、その経営 基盤を強化するのに必要な利益を得ることができない。そのため、銀行が克服しなければならない最 大の問題である、経営を安定させて預金者の信頼を得る、という課題が、いつまでも手付かずのまま 残ってしまった。金利の上限規制は廃止すべきである。"

#### 第2節 アジア危機および中国の金融改革の教訓

論文9は、金融危機に見舞われたアジア諸国および中国の経験から、金融改革の進め方に関してどのような教訓が得られるかを調べ、それらの教訓が、ヴィエトナムの金融改革にどのように適用できるかを検討している。アジア危機の最も重要な教訓は、国内経済に対する危機の影響の深刻度が、外的なショックに対する金融部門の強靭度に大きく左右されたという事実である。すなわち、金融部門が、信用リスク、為替リスク、金利リスクなど、様々なショックに対して強靭さを持っていれば、国内経済に対する危機の影響はかなり限定された。それに対し、金融部門がリスクに脆弱だと、外的なショックは金融部門によって増幅され、経済全体を不安定化させる。これが、第1の教訓である。

教訓の第2は、外的なショックに対して強靱な金融部門を作るためには、金融自由化の順序あるい は改革の順序(シークエンシング)が重要だという事実である。まず、マクロ経済の安定化、次にブ ルーデンス規制の強化と金融システムのリスクに対する強靭性の向上、第3に、ブルーデンス規制が 実際に有効に機能しているという前提条件の下における、金融自由化、金融市場の競争環境の改善、 金融機関の競争力の強化、最後に、慎重な資本移動の自由化と短期資本移動の適切な管理。

論文 9 が見出している、これらのアジア危機からの教訓は、標準的な政策処方、例えば世銀(1989、p.1、pp.122-123)、Fry(1995、pp.450-472)などが掲げている政策処方と、おおむね一致している。しかし、それをヴィエトナムに適用する際には、国営企業や広範な小農部門の存在が問題になる。

財務体質の弱い国営企業や農民を支援するために信用が優先的に配分されるような状況があり、このような状況では、形式的にブルーデンス規制が存在しても、それに実効性を持たせることが難しく、外的なショックに強い金融部門を作るのは困難である。

### 第3部 今後の研究課題と政策インブリケーション

第1部で、近い将来ヴィエトナムにおいてどのような金融改革が必要と考えられているかをまとめた。それらは、おおむね、多くの開発途上国の経験から引き出された金融改革の標準的処方箋と一致している。しかし、同時に、これまでの議論は、具体的な金融改革の進め方(順序、時期、方法など)の決定にあたって、ヴィエトナム固有の歴史的条件を考慮することが重要であることを示している。第3部では、今後の研究課題およびフォロー・アップ研究の政策的含意についてまとめるが、金融改革の基本原則をヴィエトナム固有の歴史的条件とどのように結び付けるかという問題が、その基本的な視点である。

#### 第1節 今後の研究課題

第1に、長期的な金融改革がどのような時間的枠組みのなかで考えられているか、また、それを決めているのはどのような要因かをより深く分析する必要がある。その分析に立った上で、改めて、どのような時間的枠組みのなかで長期的な金融改革を実施することがヴィエトナムにとって最適化であるかを検討する必要がある。どのように金融改革を進めたら、アド・ホックな措置に伴うマイナス効果を最小限にとどめることができるか。また、アド・ホックな措置が必要な場合でも、どのようなアド・ホックな措置であれば、そのマイナス効果が少なくてすむか。これらの疑問に答えるためには、アド・ホックな措置や金融改革が、銀行や国営企業の経営者、従業員、農家、中央銀行や政府の監督機関で働く公務員など、それによって重要な影響を受けるさまざまな関係者の利害に、どのような影響を及ぼしてきたか、また、今後及ぼすかを正しく理解する必要がある。

第2に、金融改革の進め方について、他の国の経験からより多くを学ぶ必要がある。もちろん、世界中の国々はそれぞれ異なり、金融改革の進め方も違っている。しかし、共通の要素もあり、他国の経験も大いに有用である。例えば、会計制度・司法制度の構築といった金融部門のインフラになるような制度改革は、初期に実施すべきである。"しかし、他国の経験から得られた教訓をヴィエトナムに適用する際には、ヴィエトナム固有の歴史条件を十分に考慮しなければならない。ヴィエトナム経済は、開発と移行の二重の課題を、同時に解かなければならない。しかも、ヴィエトナムは1980年代半ばにハイバー・インフレを経験し、1980年代末には、全国規模で信用組合が破綻した。どれも、金融改革を難しくする条件である。

第3に、不良債権問題の解決策と銀行部門の資本増強策を研究することは、実際的にみて、重要である。他の国で採用されたメカニズムの適用可能性を研究することも有益である。また、安定した銀行部門を作るためには、預金者を保護するためのセーフティー・ネットの構築が不可欠であり、ヴィエトナムではどのような制度が良いか検討する必要がある。そのためには、ヴィエトナムで現在どのようなセーフティー・ネットが機能しているのかを理解する必要があるが、株式銀行が破綻したとき、

そのコストが、株主、預金者、その他債権者などの間でどのように配分されるのか、利用可能な公的 情報はほとんど存在しない。

第4に、短期金融市場および短期金融市場における政策手段の研究が重要である。1994年以来、個別の銀行毎に決められた貸出制限が、貨幣供給量を制御する主要な手段として使われてきた。これはインフレの抑制に大いに効果があったが、預金ベースを拡大しようとするインセンティブを殺ぎ、金融深化を阻害した。また、1999年になってデフレが進行する中で、貨幣供給量の管理手段としては有効性を失ってしまっている。貸出制限に代わる貨幣供給量の制御手段が必要であり、そのためには、短期金融市場と短期金融市場における政策手段を開発することが極めて重要である。

### 第2節 フォロー・アップ研究の政策的含意

債務繰り延べ等のアド・ホックな措置による一時的な救済では、国営企業の資金繰りの困難をもたらした基本的経済条件は変わらない。アド・ホックな措置に伴うマイナスのインセンティブ効果を最小限にするためには、金融改革の最終目標を明確にし、長期的な金融改革を遅延なく実施することが必要である。

プルーデンス規制としては、監視が容易で、実効性をもつことが重要である。中央銀行、銀行、企業の各々のレベルで、リスクを管理する組織的能力を改善する一層の努力が必要である。

現在の金利規制は金融部門の発展に寄与していない。貸出金利の上限規制と自由な預金金利の組合 わせは、銀行部門(特に株式銀行)の経営基盤を不安定にし、銀行部門の金融仲介機能を著しく阻害 している。

銀行がすでに多額の不良債権を抱えている場合、ブルーデンス規制の強化だけを先行させると、クレジット・クランチが却ってより深刻になり、経済が縮小均衡に陥る可能性がある。ブルーデンス規制の強化と合わせて、不良債権の処理と資本の増強を可能にするメカニズムを確立する必要がある。しかし、それと同時に、国営商業銀行、国営企業の経営・組織改革の実施が必要である。

## 参考文献

## 本稿のバックグラウンドとなった論文

第1部:金融システムの現状と政策課題

- (論文1) Nguyen Thu Ha, Evaluating the current financial conditions and prospects of banks.
- (論文 2) Nguyen Duc Tang, Evaluating the financial state of enterprises (especially SOEs) and the factors affecting their relationships with banks and the government.
- (論文 3 A) Nguyen Thi Thu, Assessing the effects of depreciation of the VN dong on

foreign currency denominated assets and liabilities of banks and enterprises

- (論文 3 B) Do Minh Tuan, Assessing the effects of depreciation of VN dong on foreign currency denominated assets and liabilities of banks and enterprises (B).
- (論文 4 A) Nguyen Ngoc Bao, Evaluating the purposes and effects of various ad hoc measures implemented by the SBV and the government to mitigate the financial difficulties of state enterprises and banks (A).
- (論文4B) Nguyen Van Sau, Evaluating the purposes and effects of various ad hoc measures implemented by the SBV and the government to mitigate the financial difficulties of state enterprises and banks (B).
- (論文 5) Chu Thi Hong Minh, Evaluating the purposes and effects of various ad hoc measures implemented by the SBV to strengthen its control over foreign exchange transactions.
- (論文6) Duong Thu Huong, Reviewing the medium and long term solutions adopted to restore and consolidate the financial sector.
- (論文7) Tran Cao Nguyen, Evaluating the obstacles of opening securities markets and the measures to make a further progress toward equitization of SOEs.

## 第2部:金融改革の進め方に関する試行的研究

- (論文8) Watanabe Shinichi, Does the current regulation on interest rates match the need of the financial sector at an early stage of its development?
- (論文9) Seiichi Masuyama, Lessons for Viet Nam's Financial Sector from the Financial Crisis in Asia.

#### その他の参考文献:

Fianal Report of Phase 2, Vol. 3 (Fiscal and monetary policy) and Vol. 4 (State enterprise reform)

Maxwell J. Fry (1995); Money, Interest, and banking in economic development, 2nd edition. Baltimore and London: Johns Hopkins Press.

World Bank(1989); World Development Report 1989. Oxford University Press

<sup>1.</sup> 論文1から7まではヴィエトナム側メンバー、論文8と9は日本側メンバーによって執筆された。論文3A および3B、4Aおよび4Bの2組は同じテーマを取り上げている。AとBを比較すると、金融活動の法的 環境が極めて複雑であり、担当者の部署によって、法律や規制の取り上げ方にどのような進いがでてくるか を知ることができる。そのため、敢えて統一せずに、別々の報告とした。

 <sup>1998</sup>年財政金融政策第3巻「最終報告(フェーズ2)、5-6 ヴィエトナムの商業銀行」(森和之)、表6 (318頁) 参照。

<sup>3. 1998</sup>年6月末時点における延滞債権比率は13.7%であった。これは、1995年7.7%、1996年9.1%と比べるとかなり増加している。1998年後半には、アジア危機の影響がより深刻になったはずであるが、1998年未の数字によれば、半年の間に、延滞債権比率が、4.2%も減少している。非常に奇妙であるが、これは、後で見るように、延滞債権の返済期日を延ばすことによって、それを正常債権に分類し直したアド・ホック

な措置の結果であり、実体が良くなったわけではないと思われる。

- 4. ダウジョーンズ・ニュースワイヤーによると、1998年6月30日時点の延滞債権比率は、Incombank 17.59%、Vietcombank 12.78%、BIDV 1.77%、VBARD 3.57%であった。延滞債権比率が10%を超えた株式銀行は以下のとおり。Tu Giac Long Xuyen 98%、Nam Do 94%、Hai Phong 62%、VP Bank 54%、Gia Dinh 47%、De Nhat 39%、Viet Hoa 29%、Saigon Bank 28%、Phu Tam 26%,Dai Nam 21%、Habubank 18%、Eximbank 17%、Mekong Bank 16%。
- 5. 株式銀行の歴史は浅く、その法的枠組みは 1990 に整備された。1993 年末までに、35 の株式銀行が設立された。
- 6. IMF(1998): "Viet Nam: Selected issues and Statistical" の表 24 より算出。外国銀行の場合は、借手のほとんどは外資系の企業、あるいは、支払能力に問題のない国営企業であると思われるが、借手の所有関係について、株式銀行と、外国銀行を分けたデータは見つからなかった。
- 7. 論文 4 Aは「多くの国営企業は自己資本の 4~10 倍の負債を負っている」としている。最終報告書(フェーズ 2)「第 4 巻、国営企業改革、第 6 章、ヴィエトナム国営企業の生産・経営・財務の現状調査」参照。 1996 年時点で、調査対象になった 11 社中、 6 社の負債/自己資本比率が 3 倍を超えている。中には、負債/自己資本比率が 19 倍で、しかも、債務の多くが、ドル建てという企業も含まれている(この企業の 1998 年時点における負債/自己資本比率は、更に大きな投資とドン安のために著しく悪化していた)。
- 8. 途上国で、収入が必ずしも安定しない企業が、政策的な後押しによって、過剰に借入れ、過剰に投資したために、債務の返済不能に陥ってしまうというケースは、例外的な現象ではない。World Bank (1989、99 頁)。
- 9. 小規模な民間企業が、取引コストやリスクが高いために、銀行信用を得られない、という現象は、途上国で広く観察されている。World Bank (1989、100頁)。
- 10. ドン/ドル為替レートは、1 ドルあたり、12,293 ドン (1997 年末) 、13,908 ドン (1998 年末) 。
- 11. ここでは、企業による外国からの直接の借入を無視している。
- 12. フォローアップ調査の対象になった国営企業の一つは、雇用者数320人の中規模の製造企業であるが、1998 年末時点において、外貨建てで1200万ドルの負債を抱えている。金利負担は、1995年時点で、売上の20% に達していたが、1997年に、更に、全額借入で設備を増強した。1998年になって、30%近くあった売上高成長率が小さくなり、1999年初めの時点における設備稼働率は、20-30%にまで下落した。利払いができなくなったため、1998年10月に社長が交代させられた。借入金の返済期間を5年から10年に延長したが、それでも、金利コストだけで、売上高の40%近くになる。ローンがドル建てのため、ドンが1ドル1000ドン安くなると、ドン建ての債務が120億ドン増加する。運転資金のほとんどは、低利で政府から借入れている。輸入代替の建材企業であるが、一つの典型的な、投資の失敗の事例になっている。
- 13. 一部の情報は論文6から引用。
- 14. 農業 (農村開発) 銀行の延滞債権比率は1991年には24.1%もあった。その後、継続して低下し、1995年には13.9%にまでなったが、1996年には、14.9%に増加し、低下傾向が止まった(フェーズ2最終報告書、財政金融政策、308頁)。しかるに、1998年6月末時点の、農業農村開発銀行の延滞債権比率は、3.57%であり、比較にならないような値にまで低下した。大規模な財政措置によって延滞債務が償却されたと思われるが、詳細はわからなかった。
- 15. 注12 で述べた建材産業の場合、需要の規模(国内品 1700 万元、輸入品 500 万から 700 万元) に対して、産業全体としての供給能力が、合弁企業や外資系企業を含めて 3600 万元ある。それにもかかわらず、1999 年前半に、設備を拡張する予定の企業が存在する。
- 16. 居住者による外国為替の外国為替銀行に対する売り渡し義務は、居住者が保育する金融資産を規制する典型 的手段である。経済的にはメリット・デメリットの双方がある。外国為替に対する投機的需要が強く、外為 市場で外国為替の供給がなくなった場合、外為の売り渡し義務により、外為銀行もしくは通貨当局を通じて、 外国為替の供給が若干は回復する。外為の売り渡し義務は国内通貨に対する自己実現的な期待により引き起 こされる切下げ圧力の重要な要因を解消するからである。デメリットは、個々の経済単位の為替リスク管理 能力を制限することによる対外取引の歪みをもたらすことである。

- 17. 著名な銀行のL/C決済が不能となったことによりヴィエトナムの格付けは低下した。「トムソン・パンク・ウォッチは 1997年にヴィエトナムのソブリン格付けをBーからCに引き下げた。格下げの理由はヴィエトナム最大手の銀行 Vietcombank が 4 千万ドルのL/C決済を意図的に行わなかったかあるいはできなかかったため。」(Economic Interlligence Unit, Viet Nam, 4th Quarter, 1998) このほかにもヴィエトナムの銀行の評価を落としたケースがいくつかある。Vietincombank は 1998年8月17日、シンガポール高等裁判所における MeesPierson NV とのL/Cに関する裁判で勝訴したが、この係争で Vietincombank の評価が、ひどく傷ついた (Viet Nam, investment Review, 1998年8月31日-9月6日号)
- 18. この基準も含めて、基準を当てはめることが必ずしも銀行の効率性および安定性を高めるわけではない。規 制に含まれている点数制度の実際の効果は慎重に検討されるべきであろう。
- 19. Viet Nam Investment Review 1999年5月10-16日号。
- 20. 破綻した株式銀行を清算した時(あるいは、他の銀行が破綻銀行を吸収した時)、その費用を株主、預金者、その他債権者などの間でどのように配分したかに関して、一般に利用可能な情報が全く不足しているため、ヴィエトナムで実際にどのようなセーフティ・ネットが機能しているのか分からない。しかしながら、セーフティ・ネットの性質は銀行システムの効率性と安定性を大きく左右するだけでなく、それに移行期におけるヴィエトナム社会の性質が強く反映しているものと思われる。
- 21. World Bank (1989, Chapter 6) は、金融システムが機能するのに必要ないくつもの前提条件を検討している。世銀とバックグランド・ペーパーで、かなり基調が異なっているのは、企業や銀行の財務状態に関して、信頼性のある情報を開示することの重要性である。世銀は、これを強調しているが、これなくしては、ブルーデンス規制は実効性をもたない。
- 22. Pry (1995, 465 頁)は、「金融改革を成功させるための前提条件が議論されているが、最適な範囲、順序建て、タイミングについての分析はほとんどない」と述べている。
- 23. 1999 年時点における金利の上限規制の働き方は、かなり複雑である。1999年に入り、不況が深化し、デフレ (物価下落)が進行する中で、優良な借手に対する名目金利は、規制金利の上限より、かなり低くなっている。少なくなった優良な借手に対する貸出競争のためである。他方、リスクが高いと判断された借手は、金利の上限規制があることもあって、まるで銀行から資金を借りることができなくなっている。リスクの低い優良な借手に対しては金利の低下によって利ざやが低下し、リスクの高い借手には金利が低すぎることもあって貸出を止めている。そのため、銀行の経営基盤が弱くなっている。
- 24. World Bank (1989, p.127)



# ウィエトナムにとっての資本規制政策 - 東南アジアの金融危機から学ぶ教訓 -

# 堀内 昭義

## 東京大学

ヴィエトナム経済は過去20年間にわたって急速な経済発展を遂げてきたが、それはかなりの程度 海外からの資本流入に依存するものであった。その太宗は海外からの直接投資と政府ベースの ODA という形態で占められている。したがって、銀行融資や証券投資という形態で多量の資本が流入し、 それが危機の引き金となった東南アジアの経験を、直ちにヴィエトナムに当てはめて、具体的な政策 問題を論じるのは現実的でない。しかし、長期的な視野に立つならば、ヴィエトナムの経済発展は、 早晩、より自由な資本流出入を認めるかどうか、もし認めるとすれば、どのような政策的対応が必要 かという問題を提起することになるはずである。そこで、この論文では、近年の東南アジアの金融危 機を振り返り、そこから資本移動への対応策のあるべき姿を考察する。

# 1. 資本移動のベネフィット

標準的な経済分析の教えるところでは、自由な資本が国際間に移動することが経済発展の重要な要件である。発展途上国が自由に国際資本市場から資金調達できれば、国内の攪乱が消費支出に及ぼす影響を緩和できるし、たとえ国内の貯蓄が低水準にとどまっている期間においても、国内の有望な投資プロジェクトに資源を投入できる。また自由な資本移動は、多くの人々にとって幅広いリスク分散の可能性をもたらすであろう。

しかし資本移動のメリットは全く無条件で実現されるわけではない。海外直接投資(FDI)などに伴う技術知識の移転は、受入国側の生産性拡大に結びつくことに関しては、多くの研究者が支持を表明している。しかし他方、完全に自由な資本移動が発展途上国にも無条件で利益をもたらすであろうと主張する学者はほとんどいないであろう。国際資本移動が、上に述べたような利益をもたらすためには、個々の国の経済構造や、国際資本市場において「歪み」が存在しないという前提が必要である。多くの発展途上国は、さまざまな面で深刻な歪みを抱えているのである。これから説明するように、その歪みは資本流入の社会的費用が私的費用を上回る状況であり、それゆえに「過剰な」資本流入が生じ、経済の混乱の原因となる。国内経済に歪みを抱えている国が海外から資本を受け入れた場合、その資本流入が、その歪みによる資源の非効率的な配分を助長する危険が高いことは明らかである。

また自由な資本移動は、国内のマクロ政策運営に制約を加えることになる。よく知られているように、固定為替相場、自由な資本移動、国内独自の金融政策という三つの条件を両立させることは、原理的には不可能である(Obstfeld(1998))。自由な資本移動を許すことは、独自の金融政策をあきらめるか、固定相場制度を放棄する必要がある。したがって自由な国際資本移動は一国の政府がとり得る政策手段の範囲を狭めることになる。同時に、自由な国際資本移動は海外で生じる攪乱を直接国内へ波及させることにもなりかねない。自由な資本移動を認める経済は、それだけ健全な政策運営の

規律と外的なショックに耐えられる頑健な経済構造を備えていなければならない。

## 2. 国内経済の歪み

自由な資本移動が国内経済に弊害をもたらすような歪みとはどのようなものであろうか。ひとつは、 国内の様々な産業分野で非効率的な企業を支援する優遇措置が政府によってとられている可能性があ る。こうした産業の存在によって、流入してきた資本が一層非効率的な産業分野へ集中して非効率的 な資源配分が助長される危険がある。つまり、長期的に見て効率的基盤の欠落している産業支援策は 「歪み」の一因である。しかし以下では、産業分野における政府の政策に関してはふれず、専ら金融・ 資本市場にかかわる歪みを検討する。

金融資本市場における歪みとしては、国内銀行、金融機関の仲介能力の欠如が上げられる。東南アジアに対する近年の資本流入は、かなりの部分が銀行を経由する形をとった。つまり国内の銀行が非居住者から資金を借入、それを国内へ主として融資の形で仲介したのである。そのような資本流入が生産的であるためには、銀行が融資先を適切に審査し、モニターする能力を持つ必要がある。そうした能力が欠けている場合には、大量の資本流入は、非効率的な融資配分と、不良債権問題の発生につながる。市場経済の移行過程にある国々(その中にはヴィエトナムが含まれる)はこの非効率的な金融仲介機能という形の歪みに対応しなければならない。

銀行、金融機関がリスク管理の能力やインセンティブを持たないことも一種の歪みである。たとえば東南アジアでは、銀行は短期の資金を外貨建てで調達し、それを居住者に自国通貨立てで長期の期限で融資した。こうした経営方針は、金融システムに為替リスクと金利リスク(期間変換にともなうリスク)を同時に持ち込み、金融システムを脆弱化する。個々の銀行は、たとえ彼ら自身が健全経営を目指しているとしても、システム全体の安定性という観点から見れば過大な期間変換や為替リスクを選択する可能性がある。従って個々の銀行の経営行動をシステム全体の安定性のために規制する必要がある(World Bank (1999))。しかし、それは資本流入を直接的、あるいは一律に制限するべきであることにはならない。

# 3. 資本移動規制のあり方

金融システムの効率性という観点から国内経済の歪みを簡単に説明したが、それに対処する政策について次に考えてみよう。発展途上国に対する資本の自由な流入が、国内経済に深刻な混乱をもたらすのが国内の歪みであるとすれば、その歪みを直接除去するのが最も望ましい政策である。国内の銀行が金融仲介機能、たとえば審査能力を十分に備えていないのであれば、それに対処する政策は、本来は、銀行の審査機能を高める誘因を銀行に与えることである。また、銀行の融資活動の健全性を的確に把握し、規制する金融当局の機能も重要である。これらの機能が整えられていない場合には、自由な資本流入は、資本受入国の金融システムをかえって混乱させる危険が強い。したがって、国内金融システムの効率化、規制体系の整備が自由な資本移動を許す前になされていなければならないであろう。これは経済発展にかかわる制度改革の手順(sequence)のあるべき姿を示唆している。即ち、国内金融システムの整備が資本取引自由化政策に先行すべきことになる。

もちろん多くの東南アジア諸国がそうであるように、既に金融システムの構造が出来上がり、銀行・ 金融機関の自立的経営が確立している経済では、資本取引を直接的に規制する必要はない。また、資 本取引を実効的に規制することは極めて困難であろう。それらの国々では、歪みを是正する間接的な方法が採用されるべきである。たとえば、銀行の極端な期間変換や為替リスクの選択が、システム全体の脆弱性を高めているのだとすれば、そうした活動が銀行にとってコストのかかるものであるような条件を作り出せばよい。銀行の流動性や市場リスクの程度を尺度として彼らのポートフォリオ選択や自己資本比率を規制するという方法は、今日では極めて常識的であるが、十分に意味のある政策である。ここでは一律の資本流入規制、あるいは短期資本流入の量的規制は有効ではないであろう。

## 4. ウィエトナムのケース

この研究報告書の随所で述べられているように、銀行システムは未だに十分な金融仲介能力を蓄積 していない。金融当局による銀行部門に対する監督、規制もようやく始まったばかりであり、その有 効性には疑問の余地が残されている。こうした状況の下では、資本取引の本格的な自由化は時期尚早 ということになるであろう。

この結論は、極めて常識的である。しかしヴィエトナムの問題は、本格的な金融仲介能力をできるだけ早く国内に構築する方策があるかということである。とくに国有企業部門との長期にわたる取引関係で少なからぬ不良債権を抱えた銀行に、効率的な仲介機能を発揮させる方法があるであろうか。恐らくは、過去の負の遺産としての不良債権を一括に処理する政策枠組みが早急に求められることになるであろう。いかなる不良債権処理のスキームが選択可能かという問題は、われわれが次に取り組まなければならない重要な研究課題の一つである。

差し当たって市場経済を機能させていくためにも、ヴィエトナムにとって金融仲介機能は不可欠である。その機能をもっと外国銀行や外資系との合弁銀行に求めることが指し当たりは必要であろう。外国銀行や合弁銀行がヴィエトナム国内で本格的な業務を展開できる条件を整え、これらの銀行に対する差別的な規制は取り除くべきである。こうした差し当たっての政策は、ある程度は自由な資本取引を必要とするであろう。これら銀行・金融機関の能力を発揮させるためには、かれらと海外の金融資本市場との密接な連関を断つわけにはいかないであろう。またそうした要求が政府から突きつけられることが分かっている外国銀行は、ヴィエトナムへ積極的に参入してこないであろう。このように考えると、国内金融システムの整備が先行し、次いで資本取引が自由化されるという制度改革の手順は厳密な形ではヴィエトナムに適用できないのではないかと思われる。

# 参考文献

McKinnon, Ronald I. 1991. The Order of Economic Liberalization: Financial Control in the Transition to a Market Economy. Baltimore: The John Hopkins University Press.

Obstfeld, Maurice. 1998. "The global capital market: Benefactor or menace?" NBER Working Paper Series 6559.

World Bank. 1999. Entering the 21st Century: World Development Report 1999/2000. New York: Oxford University Press.

.

# Evaluate Current Financial Conditions and Prospects of the Banks

# Nguyen Thu Ha The State Bank of Viet Nam

Over 10 years of renovation and more than 8 years of implementation of 2 Banking Decree-laws, the Vietnamese banking system has significantly changed, gradually integrated into international market, and has met the requirements of transforming the economy from centrally planned to market mechanism. In fact, the Vietnamese banking system has increasingly developed in terms of the size and scope of operations, providing various kinds of products and services, actively contributed to promoting economic growth, national monetary stability, enhancing the development of multi-sector goods economy and implementing the strategy of industrialization and modernization of the country. It is impossible to discuss the success of the Viet Nam's economy over recent years without mentioning about the role of the banking system as a key factor contributing importantly to the course of development and integration.

Especially, during recent 2 years (1997 - 1998), despite of the fact that the economic environment was difficult due to the impacts of the natural calamities and the regionally financial - monetary crisis, a transforming economy has not had a complete legal framework, which is hiding unstable factors, the Vietnamese banking system has continuously made efforts in maintaining economic growth and curbing inflation. However, the impacts of the above mentioned factors are big challenges to the performance of the banking system. Now, besides the achievements, some banks fall into financial unsoundness. The non-performing loans originated from previously subsidized mechanism have not completely repaid, the chartered capital of the banks is small, making the issue of safety operation of the banks be of concern, which requires the immediate solutions.

# I. Evaluate the Current Financial Conditions of Banks

## 1. General evaluation

It is possible to access the financial conditions of banks through evaluating some financial ratios relating to the banks' solvency, capital size, assets' quality, banks' performance such as the ratio of liquid assets to total assets, equity to total assets, overdue debts to outstanding loans, return on equity, operating costs to profit bearing assets etc. Nevertheless, regarding the case of Viet Nam, due to the limited reporting and statistic system, the evaluation of the financial condition of its banks has mainly based on some major financial criteria on capital size, overdue debts and the outcome of banking business.

Firstly, it should be noted that at present the banks in Viet Nam have small size of chartered capital and of their own capital (equity). Although, recently, the banks' capital tends to increase over time, so far many banks (including SOCB and joint stock banks) have not had adequate legal capital, as required by the Governments stipulation in the Decree No. 82/1998/ND-CP dated 3rd October 1998. This situation partly makes impacts on the performance of the banks, especially the banks solvency, which, in turn, to some extent effects the outcome of banking business and the banks' profit.

The issue of our concern is that the credit quality of banks is still not very good, which is reflected by the ratio of overdue debts to total outstanding loans of the whole system of 9.5 % as end of Dec., 1998, compared with the acceptable ratio of 5%. It can be noted that recently the speed of credit growth has been maintained. Nevertheless, the credit quality is not quite good, resolving of remains is slow. In fact, emergence of the overdues originated from the new loans is limited, but the overdues originated from the old ones are still existing. Thus, in general, the ratio of overdue debts to the outstanding loans has decreased, but at low pace.

Theoretically, it is obvious that the higher the ratio of overdue debts to outstanding loans the lower the degree of solvency the banks have. The prolonged existence of high level of non-performing loans may easily cause the insolvency of banks, ultimately cause bankruptcy. In reality, the ratio of overdue debts to outstanding loans of the whole system tends to decrease, but the high ratio of overdue debts, as mentioned earlier, certainly cause our concern over the solvency of banks, especially of the joint - stock banks which usually have the highest ratio of overdue debts in the whole banking system. The general picture is that the banks are still under the burden of having the overdue debts and collateral in the forms of real estate.

As mentioned earlier, there is existence of overdue debts, non-performing loans in arrears partly due to the fact that the outstanding overdue debts in the past have not been repaid, which is a burden to the banks. Besides, the banking business of some banks, especially of the joint - stock banks has not met the requirements of market economy, the operations are still risky, the monitoring, supervision and internal control are not efficient, especially the legal documents have not been synchronic, which are the reasons behind the current situation of overdue debts.

Relating to the situation of overdue debts, an issue to which the banking system has paid attention is the resolving of collateral and mortgage, so far the bank's big amount of overdue debts have not been uncollected, as many loans have been backed by the customers collateral, mortgage. As for the whole country, the value of overdue debts of the commercial banks which is related to and guaranteed by property, real estate is not relatively negligible. A big amount of property's value is "frozen" in the form of collateral mortgage that has not been

sold, and has not been used effectively for the economy. A big amount of capital has been blocked in the court's cases such as Tamexco, Minhphung Epco, and Nam Dinh Textile. Recently, the banking system makes efforts to enhance the efficiency of its performance, the strength in doing business and the financial soundness. Especially, the State Bank of Viet Nam has consecutively formulated and improved the legal framework to make it be comprehensive and synchronic to facilitate the commercial banks to overcome the situation of overdue debts. Besides that, with regard to the banking business of the whole system, it can be noted that the banks themselves actively stimulated lending and investment activities to provide capital for production and business, as well as to create banks' profits. In fact, as of end 1998, as estimated, the ratio of outstanding loans to total deposits and mobilized funds was 72%. According to some economists, with regard to the management of banking business of each bank, the ratio of capital utilization, i. e the ratio of outstanding lending and investment to the total mobilized funds of between 70% and 75% was considered as ideal outcome, the ratio of more than 80% reflected a sign of weakness in solvency (payment capacity), the ratio of less than 60% reflected inefficient business. Thus, the recent performance of the Vietnamese banking system is still showing optimistic signs.

Moreover, the above comment can be further affirmed by the outcome of the whole system. So far the return (profit before tax) on equity of the whole system is 4.9% and the ratio of return on total assets of the whole system is 0.6%. The business return (difference between income and expenditures of the banking group (categorized by the type of ownership) is adequate to compensate the costs and to make contribution to the State Budget. However, it is possible to obtain the most accurate outcome after carrying out risk provisioning and paying the outstanding debts.

#### 2. Evaluate each banking group

#### 2, 1. The group of state - owned commercial banks (SOCBs)

#### a. General comments:

So far, within the Vietnamese banking system, there have been 6 state - owned commercial banks (including 2 newly established banks: Bank for the Poor and Bank for House Development of Cuulong River Delta). The recent performance of the SOCBs has showed that the SOCBs have maintained and developed their leading role in the monetary and banking business. Especially in the circumstances of the impacts of the regionally financial and monetary crisis, the status of the SOCBs has been consolidated. This can be noted through the fact that the ratio of the mobilized funds of SOCBs reached 80% of total mobilized funds of the whole system. Besides that, the credit share of SOCBs as well as the return of SOCBs also accounted for a big proportion of the whole system.

#### b. Main financial conditions:

Firstly, as the general evaluation on the size of own capital, chartered capital of banks in general in Viet Nam, state-owned commercial banks (SOCBs) still have limitation on capital size. Capital of many banks is under the legal capital level, which is from 1,100 to 2,200 billion VND as stipulated by the Government. At present, the insufficience of chartered capital as approved is also a big difficulty for state-owned banks, limitation on capital size leads to limitation on solvency (payment capacity), competitiveness and finally on the return of banks. Therefore, the Vietnamese Government is now supplementing capital to state-owned commercial banks to strengthen operating ability, ensure the maintenance of the leading role of these banks in the system.

There are still outstanding problems on credit quality of state-owned banks that need to have measures for resolution. Lending activity is not really effective due to the limitation on administrative and executive capacities and the fact that the professional level of credit officers is poor, many officers still lack in experiences and there are limitations in the mechanism and policies. A heavy burden to state-owned banks is that they have to take the role as policy banks, when necessary, to solve the remains of the past as well as to provide directed lending in accordance with the Government's instructions. Consequently, up to now, the ratio of overdue debts of state-owned banks is up to about 8.2%, a little lower than the average level of the whole banking system. Many overdue debts, bad debts relating to loans for which the collateral assets can not be resolved. In reality, if all capital amount "frozened" in the form of collateral assets is resolved, the ratio of overdue debts and bad debts of state-owned banks will reduce considerably.

However, generally speaking, there are improving signs in state-owned banks' activities, the ratio of newly-arised overdue debts is getting limited, the resolution of frozen debts and bad debts is strengthening. State-owned banks make profits in their business activities which create the accumulative source and contribute a big revenue to State Budget annually. The most remarkable thing is that state-owned banks are recently continuing to contribute a significant part in lessening the adverse impacts of the regional crisis on the country's economy.

#### 2.2. Joint-stock bank group

#### a. General evaluation:

Firstly, within only 7 years of implementing the renovation of the banking system, up to now, there are 51 joint-stock banks in the Vietnamese banking system, of which, 31 banks are urban joint-stock banks mainly locating in HoChiMinh City and the South. The establishment speed is rather fast and the quantity of joint-stock banks, up to now, is rather big. Over the past few years, joint-stock banks constantly developed on their size, capital

and operating organization, met the demand of capital for economic development, particularly in the area, gradually formed some strong banks which operate effectively so as to help reinforce the banking system after the renovation period. Joint-stock banks have, with their initial results, gradually affirmed themselves of their establishments, which are in line with the common trend and the market mechanism. However, there is still much concern about the operating quality of joint-stock banks' group at present, especially some banks which were established from bad-performing credit co-operatives in the past, their remains have not completely solved, credit worthiness is low, which may trigger an unsecured case.

#### b. Financial conditions:

The most common feature of joint-stock banks is that their size is too small and they do not operate effectively, their chartered capital is low and they are meeting difficulties in increasing their chartered capital in accordance with the regulation of the Government (until the year of 2001, up to a minimum level of 70 billions VND for urban joint-stock banks in Hanoi and HoChiMinh Cities, 50 billions VND for other urban joint-stock banks). If no measures are to be taken to increase chartered capital of joint-stock banks in order to widen their size and enhance the safety in operation in a strongly competitive environment, especially in HoChiMinh city area, joint-stock banks will hardly develop in a strong way. In reality, all joint-stock banks' chartered capital, up to now, which is added up, is still too small as compared to that of state-owned bank group, joint-venture banks' and foreign banks' branches'group. Moreover, many joint-stock banks have not, in a long period of time, increased enough capital in accordance with the Government's regulation. Up to now, there still have more than a third of urban joint-stock banks is lacking in chartered capital pursuant to regulation. In HoChiMinh city, many joint-stock banks lack in chartered capital, many banks have capital level which is lower than 50 billions VND, or even lower than 25 billions VND.

In other words, operating quality still reflects weaknesses, lack of business experience in market mechanism which includes a lot of risks, the limitation in management also cause 5 overdue debt situation or losses in guarantee for export-import letter of credit (L/C). At present, joint-stock banks are the first in lending ineffectively with the overdue debt of 15%, the average ratio of overdue debts of joint-stock banks is nearly 2 times higher than that of state-owned banks, some joint-stock banks fail to make payment. Rural joint-stock banks have the ratio of overdue debts over the total outstanding loans lower than that of urban joint-stock banks, but their credit activities are still risky. In general, the bad-performing activities of joint-stock banks are because of subjective reasons of banks, which relate to the professional level, limitation in management, business capacities, etc, and objective reasons relating to customers of these banks who are mainly private businesses, households with higher risks as compared to other banks. However, the business outcomes of joint-stock bank group show that there are some banks which initially make profits and contribute a certain part to State Budget.

#### 2, 3. Joint-venture banks and foreign banks' branches group

#### a. General evaluation:

According to the State Bank's figures, up to now, there are 25 foreign banks' branches, 4 joint-venture banks operating in Viet Nam. In general, as evaluated, foreign banks' branches and joint-venture banks operate more effectively than local banks, contribute considerably to assisting the economy stable and growth. Business result reflects the difference between revenues and expenses which are gradually increased over the years and at a high speed. The overdue debts ratio of joint-venture banks and foreign banks' branches is still at the lowest level as compared to that of other banks in the whole banking system in Viet Nam. Foreign banks' branches, joint-venture banks have paid attention to maintain the safety proportion in business activities.

#### b. Financial conditions:

Joint-venture banks and foreign banks' branches' own capital have gradually increased over the past few years. Notably, as of end of October 1998, foreign banks' branches' own capital increased by 22.6% as compared to December 1997, while joint-venture banks' own capital only increased by 11.4% in the same period. The main reason was that the subsidized capital and chartered capital of these banks are in USD, so they are increased when converted to VND due to the devaluation of VND to USD.

With regard to the credit quality, the overdue debts ratio of joint-venture banks and foreign banks' branches are lowest in comparison with that of other banks in the banking system. The ratio of overdue debts over the total outstanding loans of these banks is about 2.3%, the ratio of bad debts is about 1.2% as compared to the total outstanding loans. However, a remarkable issue is that although the ratio of overdue debt to the total outstanding loans in 1998 only in foreign banks' branches was still at the lowest level (1.52%), but the growth of new overdue debts is faster than that of other banks in the system. According to the State Bank's evaluation, the sign of increasing ratio of overdue debts especially of bad debts of foreign banks' branches and joint-venture banks, is a problem that needs to be solved quickly.

However, in general, foreign banks' branches and joint-venture banks still achieved a rather satisfactory result in their activities. It was reflected in the ratio of profit before tax over equity of 6.75% of these banks, the ratio of return over total assets of 1.72%, while these ratios of the whole banking system, as mentioned above, are 4.9% and 0.6% respectively. Foreign banks' branches achieved remarkable results and in 1998, their profit before tax increased considerably, as compared to the end of December 1997 and occupied about 30% profit of the whole banking system.

## II. Prospect of Banks

1. The banks will take measures to strengthen financial situation and reduce overdue debts to an allowed level of about 5% of the total outstanding loans

As evaluated above, overdue debt is now the most outstanding problem in commercial banks' activities which requires a solution for this issue. Moreover, in reality, there are many different reasons that cause overdue debt and bad debt situation, however, the main reason is that there are a lot of regulations on this issue, which are not concrete, complete and synchronic, which cause difficulty in applying uniformly. There are many difficulties and problems relating to the possessions' right and the right of using those assets for resolution, sale of collateral assets to recover capital for banks. As a result, one of the measures for resolving overdue debt and collateral and mortgage problems is to improve regulation on ensuring borrowings, collateral and mortgage of bank's loans. In the near future, banks will gradually increase their self-control rights and bear responsibilities in lending and making decisions on whether or not to have security for borrowings and restrict and gradually eliminate the "Asking-Giving" mechanism in collateral and mortgage which likely cause the adverse and negative impacts to credit activities and cause overdue debts. Besides, commercial banks' rights in resolving collateral and mortgage assets will be enhanced.

According to the estimation of some banking experts, as other countries in the world, the establishment of the Debt Trading Company or the Center for Management and Auction of collateral assets in the future will assist banks to lessen the burden on overdue debt and on unrecoverable loans because of difficulties in resolving collateral assets.

Apart from renovation in resolving collateral assets, the banking system keep on renewing in classifying loans and establishing risk provision funds to prevent and limit the new overdue debt arised and solve the remains (Solving frozen debts, overdue debts, bad debts through writing-off, rescheduling debts etc.). By implementing new regulations on these contents, banks will enhance their management abilities, prevention of risk and credit quality, and ensure the safety of operations.

Moreover, up to the year 2000, the constant strengthening of the banking supervision, inspection and the implementation of regulations on safety ratios in monetary-credit activities of banks and periodically evaluating and classifying banks in accordance with CAMELS standard, the strengthening of the internal control will contribute to ensure the safety and healthiness. It is hoped that, with the above renewals, banks will achieve their objectives in decreasing overdue debt and limiting it at an allowed level of 5%.

2. Based on the restructuring of banks, the Vietnamese banking system will develop on capital size, operating scope and become a multi-functioned banking system

An issue raised at present is to overcome the problem that the quantity of bank is rather big, but the number of banks which are really strong is small and the banking system needs to be quickly reinforced and reorganized. In the coming time, banks will, with the plan on strenthening and restructuring of joint-stock banks and state-owned banks, be strengthened on authorized capital size and own equity so as to strengthen the payment capacity and enhance the competitiveness in their business that leads to an increase in profit level and contribution to the State Budget. In the short-run from now to 2001, chartered capital of banks will be gradually increased to achieve the level stipulated by the Government to each banking group categorized by ownership type.

According to the plan, the restructuring will be executed for all joint-stock banks in 2 years, from 1999-2000, after pilot restructuring in HoChiMinh City. Based on the ranking of joint-stock banks pursuant to the level of safety of operation, number of banks which operate weakly and badly, have signs of incurring insolvency and hardly have ability to increase chartered capital will be closed or merged. The remaining banks will be reorganised and reinforced their operations. Consequently, until the year 2000, joint-stock banks will consist of banks with larger size as compared with the present and have higher capacity to bear risks and enough competitive power in operation. Besides, real financial situation of stateowned banks is also evaluated by implementing the independent auditing. Therefrom, stateowned banks will solve the remains such as increasing chartered capital to legal capital, solving frozen debt, overdue debts and bad debts, and making progress in arranging and reinforcing their operations. As estimated, in 2 years, state-owned banks will be strengthened in operational scale and managing and executing system and the internal checking and controlling systems will be reinforced. In the long-run, some state-owned banks are expected to be equitized with shares contributed by foreign counterparts. Especially, the preferential credit activities and directed lending of commercial banks will be transferred to policy banks. Thus, Vietnamese banking system will comprise multi-functioned banks and ensuring the financial healthiness, safety and effectiveness in operations.

# 3. Banks will develop in the direction of enhancing the self-control in business, liberalization and integrating with the international market

To raise effectiveness, in the future, banks will be self-control in their business, especially in ensuring capital source for lending. Each bank will actively and independently strengthen the mobilization and the intervention and assistance in the form of refinancing from the Central Bank will be gradually reduced. Besides, banks will be more and more independent in their business decision, ensuring loans and defining the necessity in requiring collateral and mortgage for loans as well as the resolution of these assets.

Moreover, it is impossible that Vietnamese banks can not, in the recent economic environment, take part in the liberalization trend in the region and the world. In the coming time, banks'

activities will, with such spirit, become more and more competitive in a "level playing field", complying with the principles of the market economy. Banks will be more and more independent in their decision on interest in accordance with the supply-demand changes in the market. To ensure the safety in operation, financially healthiness, transparency and integrating with the international market, banks will upgrade their accounting system in line with the international standards. As mentioned above, the regular ranking of banks under the CAMELS method is also a step in the renewal program to maintain the safety of the system and alignment with the international standards.

To meet the increasingly demand of the economy, apart from raising financial ability, managing and executing capacities and the good implementation of regulations on safety ratios, banks will constantly enhance the quality of services through strengthening the modernization of banking technology and upgrading the officers' professional level.

#### Conclusion

This writing concentrates on basic aspects on financial conditions of banks operating in Viet Nam in general, as well as banking groups categorized by ownership type in particular. Based on the assessments on the real situation, this writing gives projections on prospects of banks in the short-run as well as in the long-run.

It is said that banking activities in present economic environment are facing many difficulties such as: scale and financial abilities of banks are limited and the issue of overd ue ebts is requiring a measure to solve quickly. However, in the coming time, the Vietnamese banking system will make significant changes. The restructuring of banks, especially joint-stock banks and state-owned banks together with the establishment of policy banks and a number of renewals on the mechanism, policies, supervision and controlling activities etc. will assist banking system to become strong in scale and healthy in finance and ensure to meet the increasingly demand of the economy.

